

AI病名判断 静大首位

国際 コンテスト 電子カルテで推測

静岡大情報学部行動情報学科の狩野芳伸准教授(37)の研究室チームが、電子カルテから人工知能(AI)などを用いて自動的に診断名を推測するシステムを競う国際コンテストで首位の成績を獲得した。専門家の診断に近い正解率で、狩野准教授は「医師をサポートする医療診断支援システムに人工知能を応用するための第一歩」と意義を強調する。

コンテストには国内情報から診断名に直接外から8チームが出場関わりと思われる表現した。患者の身長や体重、年齢のほか、病歴や手術の状況、入院後の経過などを記した横擬カルテから推測される病名を導き出すシステムを構築し、精度を競った。

狩野准教授のチームは、カルテ内の膨大な情報は、カルテ内の膨大な種類がある。カルテが

「がんにもさまざまな種類がある。カルテが

らどの臓器のがんかコンピュータが適用できる状態に落とし込むためのルール作りに苦労した」と話した。

個人情報保護の観点などから、現時点で電子カルテのデータを研究に生かすには高いハードルがある。狩野准教授は「病院などと連携して生データを活用

した研究ができれば、近いうちの実用化も現実味がある」と語った。
(浜松総局・寺坂裕真)